# 黒毛和種肥育牛にみられたマイコプラズマに起因する髄膜脳脊髄炎

阪神基幹家畜診療所　八多診療所
○図師尚子　泉　弘樹　小田修一　井上雅介　山崎　肇

神経症状を呈する牛の疾病原因には，感染，腫瘍，栄養性疾患など様々なものがある。

今回，平衡感覚異常を呈し起立不能に陥った肥育牛を診療する機会を得，病性鑑定の結果，マイコプラズマに起因する髄膜脳脊髄炎と確定されたのでその概要を報告する。

**材料および方法**

1）農場の概要　常時750頭の黒毛和種雌牛を飼養。

2）患牛　黒毛和種牛2011年6月5日生。2012年5月14日に北海道より導入。

3）臨床経過　2012年8月8日に食欲不振，歩行困難との稟告にて求診があった。

初診時体温40.5℃，脈拍数100回/分，活力・食欲欠，繋留時に平衡感覚を喪失し転倒した。肺胞音は軽度に粗励。血液検査所見は，TP 8.1g/dL，Glu 76mg/dL，BUN 7 mg/dL，A/G 0.5(Alb 2.7g/dL，Glob 5.4g/dL)，AST 558IU/L，GGT 37IU/L。

第6病日には体温39.5℃，脈拍数60回/分，食欲やや回復するも，ロボット歩様，視線異常を呈した。第8病日には自力歩行可能となり経過観察としていたが，第39病日に後駆麻痺状態で起立不能に陥ったため，第45病日に姫路家畜保健衛生所にて病性鑑定を実施した。

**結果**

脳所見：延髄底部の硬膜に粟粒状の乳白色腫瘤散在。延髄の脊髄への移行部底部に10mm程度の乳白色腫瘤を認め延髄を圧迫。組織所見において，硬膜(脳底)では石灰化を伴う乾酪壊死を炎症細胞と線維組織が取り囲み肥厚。脊髄髄膜が多発性乾酪壊死と線維組織により重度に肥厚し，一部は脊髄実質を圧迫。

肺所見：両肺の前葉は肝変化し，気管，気管支，肺胞内に膿汁。組織所見において，気管支周囲に石灰化を伴う多発性リンパ濾胞形成。

細菌検査：硬膜，脊髄移行部，肺において*Mycoplasma bovis*を分離，PCR検査陽性であった。肺より*Pasteurella multocida*を分離。

**考察およびまとめ**

病性鑑定の結果，マイコプラズマによる髄膜脳脊髄炎と確定された。起立不能に至った原因については，腫瘤による延髄の脊髄移行部の圧迫であると推察できた。中枢神経への感染経路には，血行転移性，隣接組織から連続性や神経介在性があり，頭蓋神経軸索に沿って上向する場合もある。肺組織は高度に石灰化し先行病変と考えられるが，脳病変と関連付ける経路は特定できなかった。